

# Relationship between the Kihon Checklist and the clinical parameters in patients who participated in cardiac rehabilitation

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2019-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 國本, 充洋 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002274">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002274</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2052 号

The relationship between the Kihon Checklist and the clinical parameters in patients who participated in cardiac rehabilitation

(心臓リハビリテーション患者における基本チェックリストと臨床指標との関連)

國本 充洋 (くにもと みつひろ)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

フレイルは、加齢に伴う様々な併存疾患を基盤とした身体抵抗性や予備能の低下により健康障害を来しやすい状態とされる。基本チェックリストは、高齢者に対するフレイルの評価に有用である事が知られている。しかしながら、心臓リハビリテーション施行患者における基本チェックリストの臨床的意義は不明である。本研究では、心臓リハビリテーション施行患者における基本チェックリストと臨床指標との関連について評価することを目的とした。

対象は、2015年11月から2017年10月に、当院回復期Phase II心臓リハビリテーションに参加した連続1,000例とし、50歳未満、基本チェックリスト未判定例、同一症例を除外した845例を解析対象とした(平均年齢70.6歳、男性584例)。対象患者は、基本チェックリストのスコアに従って非フレイル群(n=287)、プレフレイル群(n=270)、フレイル群(n=288)の3群に分類した。また、心肺運動負荷試験を施行した連続302例を対象に、運動耐容能との関連も検討した。

左室駆出率は3群間で有意差を認めなかった。フレイル群は、非フレイル群と比較して有意に高齢であり、うっ血性心不全の既往が多かった。フレイル群、プレフレイル群は、非フレイル群と比較して栄養指標、体幹四肢骨格筋量、除脂肪量及び握力が有意に低値であった。心肺運動負荷試験では、3群間で最高酸素摂取量の段階的な有意な減少を認めた(非フレイル群:  $17.2 \pm 3.6$ 、プレフレイル群:  $16.0 \pm 3.4$ 、フレイル群:  $14.4 \pm 3.5$  mL / kg / min,  $P < 0.01$ )。多変量回帰分析の結果、基本チェックリストスコアは最高酸素摂取量と有意な関連を認め、運動耐容能を規定する独立する因子であった( $r = -0.34$ ,  $P < 0.0001$ )。

フレイル判定のみならず最高酸素摂取量と関連する基本チェックリストは、心臓リハビリテーション施行患者に対する臨床評価方法として有用である可能性が示された。